

平成27年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
<p>1 県工学びのスタンダードやSPH事業を推進する中で、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。</p>	<p>① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>教材や内容がよく工夫された授業であると回答する生徒の割合で判断する。 A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(A) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「工夫されていると思う」29%、「やや思う」63%であり、肯定的な回答は92%であった。 現在実践しているアクティブ・ラーニング等の指導の手立てや発問の仕方について、教科・学科毎に検討・改善し、生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくりを目指す。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、A:14%、B:33%、C:32%、D:21%であり、ほとんど確保できていない生徒の割合はほぼ半減しており、平均すると1時間の学習時間を確保できた日数は2.3日であった。なお、現在のところ、判定基準としたA評価70%を下回っている。 教務委員会を中心として、家庭学習の進め方を検討し、反転学習等の家庭学習と関連させた授業づくりを検討する。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的にアクティブラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>日々の授業においてアクティブラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 A 十分意識している B ときどき意識している C あまり意識していない D ほとんど意識していない</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(A) 教師対象の学校評価アンケート(前期)において、A:33%、B:63%、C:4%、D:0%であり、判定基準としたA評価+B評価80%を上回った。 授業において生徒に論理的な思考を求める「県工 ThinkingTime」を軸に、各教師にアクティブ・ラーニングを意識した授業を実践するよう、各種研修を通じて働きかける。</p>
	<p>④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>年間に5回以上利用した教師の比率で判断する。 A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満</p>	<p>(学習情報課) 最終評価にて実施 1学期末現在、教師対象の学校評価アンケート(前期)において、利用回数5回以上:35%、3回以上5回未満:12%、1回以上3回未満:31%、未実施:23%であった。 判定基準とする5回以上の利用者比率が65%を超えるよう、2学期以降も各教師に対して研修等を通じ活用に向けた啓発に努める。また、教師がICT機器をより簡便に利用できる環境づくりにも一層努力する。具体的には、プロジェクターの普通教室への常設化を試みる。</p>
<p>2 県人間力スタンダードを掲げ、校訓による規範意識やマナーの向上等、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。</p>	<p>① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。</p>	<p>生徒指導課 各学年</p>	<p>挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p> <p>学校において基本的な生活習慣や躰に対する指導ができていると思うかどうかで判断する。 A 十分指導がなされている B ほぼ指導がなされている C あまり指導がなされていない D 全く指導がなされていない</p>	<p>(生徒指導課・各学年) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「取り組んでいる」54%、「やや取り組んでいる」40%であり、合わせると94%であった。目標とする95%に1ポイント及ばなかった。 全校集会や学年集会を通じ、機会あるごとに挨拶の大切さを「県人間力スタンダード」の「社会適応力」と結びつけ指導し、挨拶の励行に取り組む姿勢の醸成・向上に努める。</p> <p>(生徒指導課・各学年) 中間評価(A) 保護者対象の学校評価アンケート(前期)において、A:55%、B:43%、C:3%、D:0%であり、判定基準としたA評価+B評価80%を上回った。 保護者の目から見ても、大半の生徒は良好であるとの認識である。しかし、一部の生徒ではあるが規範意識の薄い生徒がいる。それらの生徒については、学年、科、部活動顧問と連携を取り、さらに家庭とも協力して粘り強く指導を行う。</p>
	<p>周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。</p>	<p>総務課</p>	<p>周辺美化活動(除雪活動を含む)や各学科の特色を活かした地域貢献活動に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>(総務) 最終評価にて実施 1学期末現在、生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「取り組んでみたいと思う」25%、「やや思う」53%であり、取り組みに肯定的な回答は78%であった。 判定基準とするB以上を目指し、2学期以降は、前向きな地域貢献意欲を維持しながら実質的な貢献活動の結果が残せるよう、1つ1つのボランティア行事の趣旨等を生徒へ周知し、しっかりと取り組ませたい。</p>
	<p>② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。</p>	<p>生徒指導課 学年団</p>	<p>違反指導件数減少の割合を目標とする。 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>(生徒指導・各学年) 中間評価(A) 自転車の違反件数は、7月末現在で20件(昨年度43件)と54%減少しており、指導の成果は上がっている。しかし、自転車事故の報告件数が8月末現在で12件(昨年度14件)とほとんど減少していない点が課題である。 年間を通じて、判定基準とするC以上を目指し、2学期以降、全校集会、学年集会およびLHを通じ、自転車事故の主な原因である交差点での一旦停止、徐行運転について重点的に指導する。</p>

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
3 就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	(進路指導課) 最終評価にて実施 暫定(A) 1社目受験で内定した割合: 97.5% (昨年同期91.4%) 就職試験受験者165名中、1社目受験での内定者161名 (9月末時点)
	② 専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	来場者の展示物(課題研究の内容)に対する評価の割合で判断する。 A とてもよかった B よかった C ふつう D あまりよくなかった	(工業7科) 最終評価にて実施
	③ 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	(教務課) 最終評価にて実施 前期の認定者数は22名(ジュニアマイスターゴールド5名、ジュニアマイスターシルバー17名)であった(昨年同期23名)。後期に技能士等ポイントの高い資格試験が多い。そのため、後期の認定者数を含めて最終評価する。
	④ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。 A 全国大会でベスト16以上の成績であった。 B 全国大会に出場した。 C ブロック大会で入賞した。 D 県大会で入賞した。 ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した。 D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(A) ものづくりコンテスト北信越大会 旋盤部門 優勝(全国大会出場) " 県大会 電気工事部門 2位(北信越大会出場) " 県大会 電子回路組立部門 優勝(北信越大会出場) " 北信越大会 化学分析部門 優勝(全国大会出場) ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2015 in 白山 優勝 ----- 各種コンテスト、コンクール(工業7科) 最終評価にて実施 暫定(C) 石川の農林漁業まつり広報図案コンクール 入選 全国産業教育フェア ポスターデザイン採用、マスコットキャラクターデザイン採用 愛鳥週間ポスター、環境月間ポスター、ゴッドマナーキャンペーンポスター採用
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 ----- 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課) 中間評価(A) 全体で96.7%の生徒が部・同好会に所属している(重複含む、昨年同期95.0%)。新入生の加入率は例年並みであったが、2・3年生の加入率が高水準であったため、加入率が上がった。中途退部者が出ないよう、顧問と担任、顧問と生徒会、顧問にて連携を図る。退部者が出ても他の部・同好会に所属し活動していけるような働きかけを、生徒会課が中心となって顧問とともに行う。 ----- (生徒会課) 中間評価(B) 全国高校総体には、男子バレー部、柔道部、陸上部、ボクシング部が出場した。学校対抗順位では暫定で男子4位(昨年5位)。男女総合で6位(昨年14位)。昨年に比較し成績はやや上昇傾向にあるが、まだまだ上位入賞に期待がもてる部があるので顧問や生徒に積極的に働きかけを行う。特に、女子運動部の更なる成績向上に向け、体力・精神力の強化を図る。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	(生徒会課) 中間評価(A) 保護者対象の学校評価アンケート(前期)において、「行事が充実していると思う」58%、「やや思う」39%であり、肯定的な回答は97%であった。 「県工祭」などの行事の企画にあたり、生徒からの要望を検討しながら、学校全体で生徒が主体的・積極的に取り組める内容とする。生徒に任せられるものは任せ、企画・運営に責任感を持たせられるように支援する。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課) 最終評価にて実施 暫定(C) 8月末までの歯科受診率は21.6%であった(昨年同期11.5%)。 歯科検診実施直後および7月の保護者懇談時の2回、文書による受診勧告を行ったところ、昨年に比べ受診率は飛躍的に向上した。今後、保健室が中心となって、部活動顧問、ホームルーム担任と連携し、個別指導を行い、受診率の向上を図る。